

2012年12月14日

日本エルガード協会 セミナー

荒廃する日本としないために

－ 30年前の衝撃を振り返る －

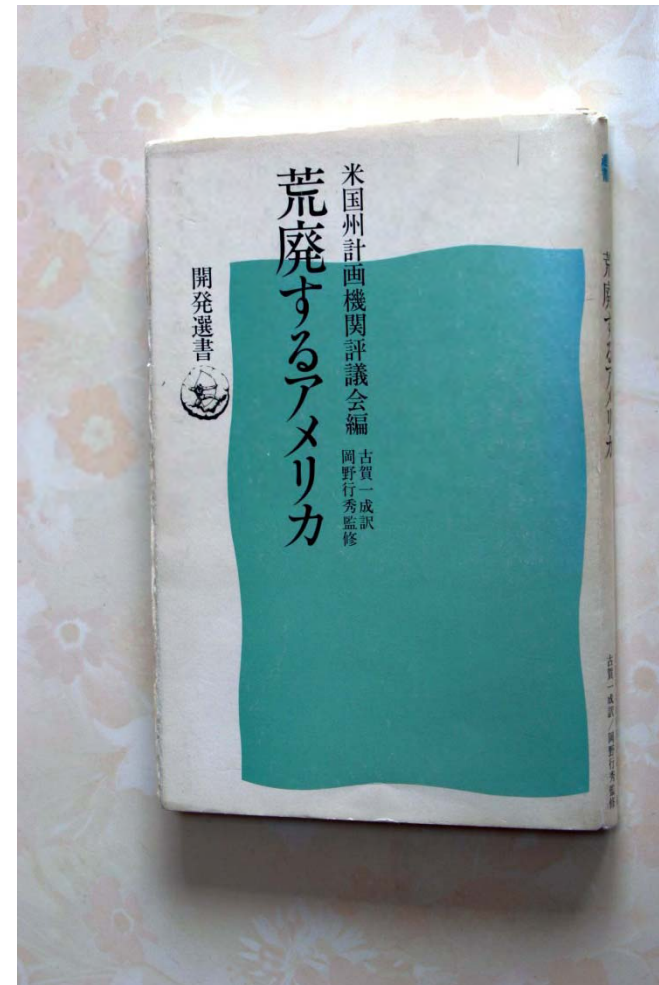
蒔田 實

AMERICA IN RUINS

The Council of State Planning Agency
(米国州計画機関評議会)

1981年

1982年 翻訳発刊
岡野行秀監修
古賀一成 訳
開発問題研究会



「荒廃するアメリカ」の反応（1）

- ・ 1981年4月27日 タイム誌の特集

「スペース・シャトルの派手な宇宙ショーが演じられているけれども、アメリカ経済を支えている道路をはじめとする公共施設の痛みが激しく、アメリカの再生計画は足下がぐらついている」と警告

「荒廃するアメリカ」の反応（2）

- ・ 新聞などの報道

読売新聞が、タイム誌の特集と同時に報道するとともに、各紙が一斉に報道

- ・ 調査団の派遣

アメリカの現状に驚くとともに、各種機関が実状調査

「荒廃するアメリカ」の背景（1）

- ・ アメリカの公共施設は維持管理がないがしるにされたまま、日々脆弱化している
- ・ 緊縮予算とインフレと言う切迫した事情の下に、老朽化した公共施設の修復が延期され続けている・ 基幹施設のこのような劣悪な状況は、後のアメリカ経済の再建のボトルネックになる（“はしがき”から）

「荒廃するアメリカ」の背景（２）

- ・ 1920年代　： 米国の「永遠の繁栄」
自動車産業の成長、郊外都市の出現、
都市間の道路網の整備、マンハッタンの高層ビル群
- ・ 1930年代　： ルーズベルト大統領のニューディール
政策によるTVAをはじめとする公共施設の建設
- ・ 1970年代になり、建設後40年を経て、
この頃の公共施設の老朽化が顕在化しはじめ、
1970年代末には深刻化

「重い遺産」

1983年

斎藤宏保 著

長編警告

ノンフィクション
小説

詳伝社



コンクリート構造物の早期劣化が社会問題化したのは NHKの一連の放送から

- 1983. 3 NHK 「警告！コンクリート崩壊・
忍び寄る腐食」
- 1983. 9 NHK 「関西地方におけるアルカリ骨材反応」
- 1984. 4 **NHK特集「コンクリートクライシス」**
- 1984. 9 NHK 「狭山台団地の異常劣化」

NHK特集「コンクリートクライシス」

- ・半永久的なものと誰もが信じていたコンクリート構造物が、意外にも早期に劣化することを、日本およびアメリカの事例を紹介した。
- ・その原因は「塩害」、「アルカリ骨材反応」によるもので、耳慣れないその言葉は人々の不安を一層かき立てるものであった。
- ・マンションのローンをようやく払い終わる定年間近になって、大規模な修繕あるいは立て替えが必要となれば、誰でも途方に暮れる。こんな思いを人々に与え、大きな反響を呼んだ。

コンクリートが危ない

- 1999年 5月
小林一輔 著
岩波新書

3章の見出し
腐食する山陽新幹線高架橋



1ヶ月後にトンネル内のコン
クリートが崩落して 新幹線
を直撃



山陽新幹線 トンネル内のコンクリートの剥落

1999(平成11)年6月28日

1999年(平成11年)6月29日 火曜日 40700号 (日刊)

コンクリ崩落 計200キロ

新幹線破損

施工不良個所から

運輸省3社に点検指示



山陽新幹線小倉～博多間の福岡トンネル(福岡県山崎町、全長約八・五キロ)内で千七百メートルの間に、走行中の新幹線列車がひかきり、コンクリート壁が崩落した事故で、JR西日本は二十八日、コンクリート壁が崩落した箇所は、施工不良が原因と見られる。JR西日本は、崩落した箇所に施工不良が原因と見られる。JR西日本は、崩落した箇所に施工不良が原因と見られる。

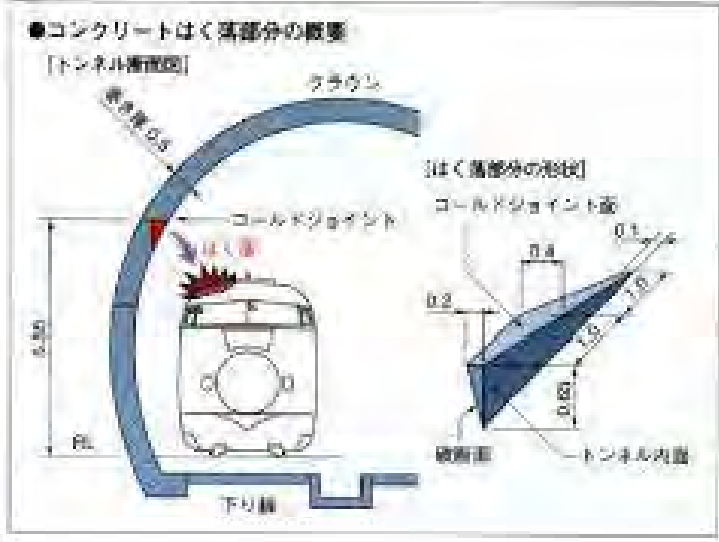


新幹線トンネル内では、約四十センチ厚のコンクリートが崩れ落ちた。これは、約四十センチ厚のコンクリートが崩れ落ちた。これは、約四十センチ厚のコンクリートが崩れ落ちた。これは、約四十センチ厚のコンクリートが崩れ落ちた。



朝日新聞
東京部
朝日新聞
電話

紙面
柳沢



あれから30年 「荒廃する日本」の懸念

「荒廃するアメリカ」(古賀一成訳)から

「合衆国は、公共基盤施設の面で深刻な投資不足におかれている。緊縮予算とインフレのために、国や地方の公共施設の維持・管理が延び延びになっており、しかもその数は年々増えつつある。

老朽化して今にも壊れそうな公共施設ですら、その更新や修復が延期されており、新設の計画は中止されるか、その計画期間が引き伸ばしにされている。」

終